

第5学年 道德科学習指導案

令和5年11月22日(水) 5校時

西原小学校 5年2組 計33名

授業者 末吉 亮裕

共同研究者 二木 忍

當山 清観

1 主題名・教材名

主題名:「思いやりの心」 内容項目:B 【親切、思いやり】

教材名:「バスと赤ちゃん」(出典「小学道德 ゆたかな心5年」光文書院)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本時は、高学年の内容項目[B 主として人との関わりに関すること]の「親切、思いやり」について、学習指導要領で学年段階ごとに次のように示されている。

第1学年及び2学年	第3学年及び4学年	第5学年及び6学年	中学校 [思いやり、感謝]
身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

相手の思いは、目で見ることができない。しかし、相手の様子や立場をよく観察することで、相手がどのように感じて何を思っているのかを察することはできる。相手の思いが分かれば分かるほど、その思いに応えようとしたり、相手のために自分にできることをしようという思いがわいてきたりする。この心が思いやりの心である。そして、そのような思いが生み出した親切な行為には、人の心を温めたり心を動かしたりする力がある。指導に当たっては、特に相手の立場に立つことを強調する必要があり、自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。また人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていくことも大切である。そのためには、児童が多様な人々と触れ合い、助け合って何かをするような機会を増やすとともに、それらの体験を生かし、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する必要がある。

(2) 児童の実態について

この時期になると、子どもたちは、相手の様子や立場を見て思いを察することができるようになってくる。また、相手の思いを汲み取って、相手のために自分にできることをしようとする子どももいる。しかし、相手の思いを分かろうとする心が思いやりであることや、そのような心から生まれた親切な行為に人の心を温めたり動かしたりする力があることにまで気づいている子どもは少ない。自分の内面にある相手を思いやる心を自覚できるようにすることで、そのような心をもとにして行動しようという思いを高めることができるようになってほしい。

(3) 教材について

教材「バスと赤ちゃん」は、バスの中の乗客としての思いやりの心を考えながら、大泣きをする赤ちゃんを抱く若い母親をどう受け入れていくかを通して、よりよい(バスの中の)社会の実現をどうめざしていくかを考えることができる教材である。小学5年生の児童に親切や思いやりを考えさせるのに効果的な資料である。バスの中で沸き起こった〈拍手の意味〉は、誰に向けたどういう意味をもつものなのかを話し合わせることで、多面的な考え方を語らせ、互いの感じ方、考え方の根拠を問いながら学び合わせ、自己の価値観を見つめつつ磨き合わせたい。

さらに、感動的な涙で終わるこの資料の出来事が、本当に相手の立場を考えた行為であるのかどうかを、「問題」としてとらえさせ、多角的な話し合いを構築していく。本教材が乗客の立場からの描写となっているため、母親の立場から考えさせた場合に、これが本当の意味での「思いやり」になっているのかどうかを話し合うことにより、社会連帯についても考えさせていく。本教材は、本来感動的な教材として扱われることが多い。しかし、あえてそこに「問題」を見つけさせることにより、より高い価値を考えさせていくことができると言う意味で、本教材の新しい活用効果を提案したい。

(4) 指導観について

本時の授業は、児童が教材の中から問題を見つけ出し、それを解決するための話し合いをすることにより「親切、おもいやり」という道徳的価値を深めていきたい。

展開では、バス車内で拍手が起こった場面を取り上げ、「だれのための拍手、何に対する拍手」であったかを多面的に考えさせる。その際、児童の思考を「見える化」するために、ポジショニングなどの思考ツールを活用する。そして、中心発問では、バスの運転手や乗客の行為が、本当にお母さんに対しての思いやりの心からなされたものであるかを多角的に考えさせていく。教材は乗客や運転手の立場から書かれたものであるので、母親の立場から考えさせることで、その問題点に気づかせていきたい。

3 校内研との関連

テーマ：自己肯定感を高め、未来に向かう児童の育成
～地域との関わりの中で自己を見つめる道徳教育を通して～

今年度、5学年の指導の重点として

B 主として人との関わりに関すること「礼儀」

C 主として集団や社会との関わりに関すること「勤労、公共の精神」

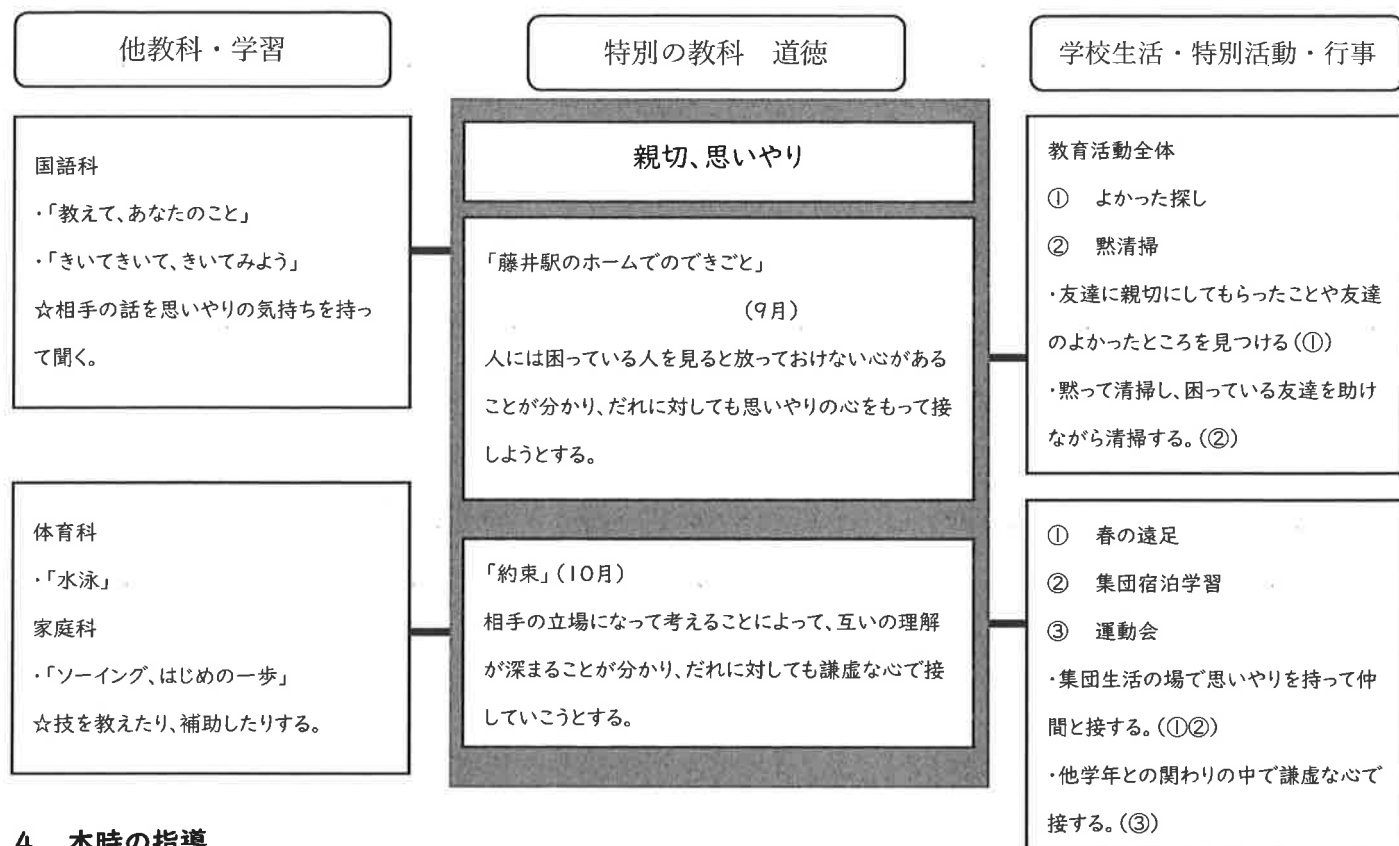
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること「生命の尊さ」

の3つを挙げている。これらの内容項目を踏まえ、5学年では、学校教育活動の様々な場面で自己肯定感を高めるため自分のよいところや成功体験を多く経験させるような取り組みを行っているところである。

これまでに春の遠足にて、6年生とリレー対決(交流)を行い、6年生の見事な走りを体感することで、憧れの存在として感じることができた。また、運動会に向けてのエイサー練習では、6年生とペアになり踊り方を教えてもらい、運動会までの短い練習時間の中で、しっかり踊ることができるようになった。このように先輩との交流や触れ合う機会を多く持ち、優しくしてもらうことで、相手の立場に立って物事を考え、親切、思いやりの心を持って接することの大切さを実感することができた。

また、6月に実施した集団宿泊学習では、それぞれの班で協力し、野外炊飯や出し物などに取り組み、自然体験を通して、充実感・達成感を味わうことができ、自律性、積極性、協調性を養ってきた。

今後、「ありがとう集会」や「ドリームスクール」、「総合的な学習の時間」などで地域の方々との学びの場を多く持ち、学校生活の中で下級生や友達、先生方、さらに地域でも礼儀や親切、思いやりの心を持って接することができるような児童を育てたい。

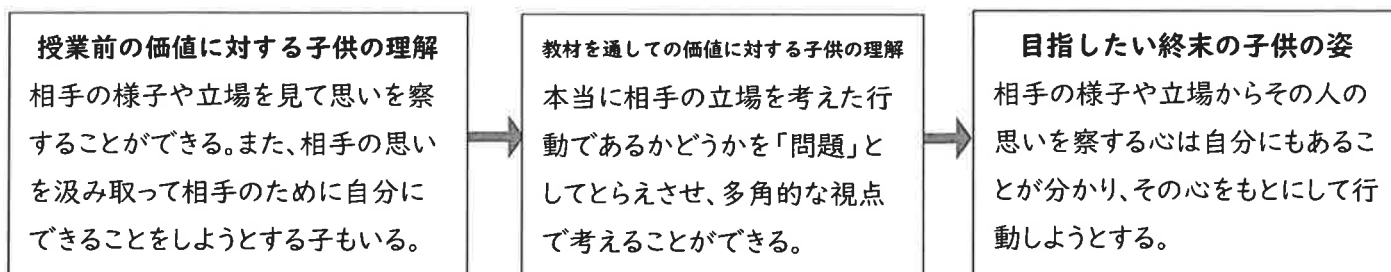


4 本時の指導

(1) 本時のねらい

運転手、お母さん、乗客の立場になって考えることを通して、思いやりの心について理解し、だれに対しても思いやりをもって、相手の立場に立って行動していこうとする態度を育てる。

(2) ねらいとする価値への追求の見通し



(3) 本時の展開

段階	学習活動	主な発問 □基本・◎中心・○補助 ●児童の予想される反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入 5分	1.「思いやり」とは何かを考える。(ペア→全体)	□「思いやり」とは何ですか。 ・人にやさしくする ・どんな人にも親切にする ・人进行う	◆相手のことを考えることを何というかを考えさせ、「思いやり」を意識させる。
	「思いやり」について考えよう。		

3. 教材「バスと赤ちゃん」の内容をおさらいする。

4. 拍手の意味を考える。
(1) 拍手の意味を話合う。

◎拍手はだれに対する、あるいは何に対する拍手だったでしょう。

- ① 個人で考える。
- ② 小集団で情報交換する。
- ③ 全体の場で発表。

ア：運転手さん
・その考えに賛成だよ。
イ：若いお母さんへ
・気にしないで乗って行ってね。
ウ：最初に拍手した人
・よく拍手してくれたね。
エ：自分たちへ
・いいことを一緒にするぞ。
・いいことだと、いやなことでも我慢できる。
オ：その他

(2) この出来事の問題点について話し合う。

□自分がこのお母さんだったら、拍手をもらった後、どうしますか。

- ① 一人で考え、ポジショニングで行動を示す
- ② 全体で意見交流する
- ④ 役割演技をする

【乗っていく】
・皆さんの親切がうれしい
・みんなが認めてくれたから
【降りる】
・その後も苦しい思いをするから
・赤ちゃんは泣きやまないから

(3) 本当の「思いやり」のある行動について考える。

○降りると言ったお母さんを降ろしてあげるのは思いやりですか。

- ① 一人で考え、ポジショニングで行動を示す
- ② 全体で意見交流する

【思いやり】
・お母さんの気持ちを尊重すべきだから
【思いやりじゃない】
・目的地ではないのに、赤ちゃんが泣いているという理由で降ろすべきではない。

◆乗車している人の気持ちに視点をあてる。

◆だれに対する拍手であっても、公共の場であることを意識した拍手であることを考えさせる。
◆拍手しなかった人の気持ちにもふれる。
◇だれに対する何の拍手なのかを様々な角度から捉え、考えようとしているか。

◆ポジショニングを活用し、迷う気持ちを引き出す。
◆降りるという児童について役割演技を取り入れる。

◆母親を意識した行動を考えさせる。

終末 10分	5 思いやりについて学んだことを振り返る。 ① ワークシートに記入 ② 意見交流 書くときの視点 ① 今までの自分はこうだった。 ② 友達の発表や考えを聞いて「そうか!」「あっ!」と思ったこと。 ③ 今日の道徳の学習で学んだこと・分かったこと。 ④ これからやってみたいこと。	・みんなで声をかける方が、優しくて思いやりがある ・運転手さんの優しさがよく分かった。 ・「思いやり」は、相手を中心に考えないといけない。	◆運転手と自分の考えとの価値比較をする。 ◇自分の中にも相手の立場に立って考え、思いを察する心があることが分かり、その心をもとにして行動していこうとしているか。
-------------------	--	---	--

(4) 評価

- ①指導の評価 思いやりの心について理解し、だれに対しても思いやりをもち、相手の立場に立って行動することのよさを考えるように、意識して発問できたか。
- ②児童の評価 だれに対する何の拍手なのかを様々な角度から捉え、考えようとしているか【発表】
自分の中にも相手の立場に立って考え、思いを察する心があることが分かり、その心をもとにして行動していこうとしているか。【自己のふり返りができていたか。(タブレット)】

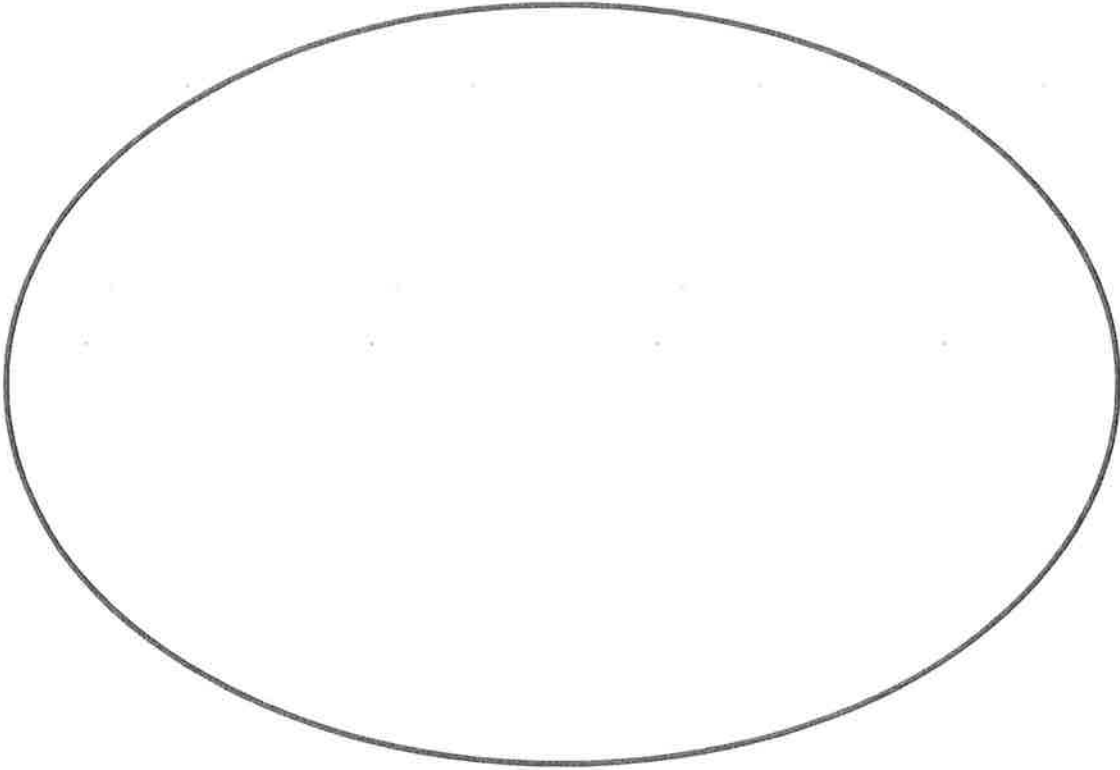
(5) 板書計画



(6) ワークシート

心のつぶやき♪

名前_____





38

バスと赤ちゃん

十一月も半ばをすぎたころのことです。

わたしは体調をくずし、週二回、^{*なかのなか}中野坂上の病院に通院していました。

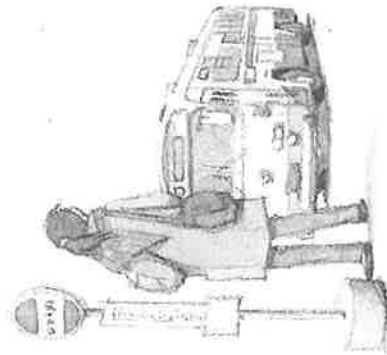
その日は、今にも雪がふりだしそうな空で、とても寒い日でした。

昼近くになって、病院での診察を終え、バス停から

いつものバスに乗りました。

バスには空いている席がなく、わたしは前方の乗降口の反対側に立っていました。車内はだんぼうがきいていて、外の寒さをわすれるほどでした。

間もなく、バスは東京医科大学前に着き、そこでは多分、病院からの帰りなのでしょう、どつと多くの人が乗り、あつという間に満員になってしまいました。



* 中野坂上
東京都中野区

立ちならぶ人の熱気とだんぼうで、先程までの心地よさは一度になくなってしまいました。バスが静かに走り出したとき、後方から、赤ちゃんの火のついたような泣き声が聞こえました。

わたしには人見えませんでした。が、ぎゅうぎゅうづめのバスと、人の熱気とだんぼうとで、小さな赤ちゃんにとっては苦しく、泣く以外に方法がなかったのだ、と思えました。

泣きぶけ、赤ちゃんを乗せて、バスは新宿に向かつて走っていました。

バスが次の停留所に着いたとき、何人かがおり始めました。最後の人がおりるとき、後方から、

「待ってください。おります。」

と、一人の女の人の声が聞こえました。その人は立っている人の間をかき分けるようにして、前の方へ進んで来ます。

そのとき、わたしは赤ちゃんの泣き声がだんだん近づいて来ることで、泣いた赤ちゃんをだいているお母さんなのだな、と分かりました。



ぎゅうぎゅうづめのバスの中で、お客さんたちは、どんなことを考えていたのかな。





思いやりがある人はこのちがひが、
改めて覚えておきましょう。



今後に自分らしくまた思いやりがある行動
についてまじめ、だれにも語り合おう。

わたしはどうしていいか
分からず、多分みんなも
そうだったと思います。

ほんの何秒かすぎたとき、
一人の拍手につられてバス
の乗客全員の拍手が返事と
なったのです。

お母さんは、何度も何度
も頭を下げていました。

数十年前のことですが、
今でもこの光景を思い出す
と、目頭が熱くなります。

わたしのとても大切な、
びにしみる思い出です。



●最上孝子 作 全国赤十字連合会より提供された写真をもとに描かれた「バスに乗る人々」(横濱市) 1946年

拍手の中には、どんな
「返事」がこめられて
いるのかな。



「みなさん。こちらのお母さんは新宿まで行くのですが、赤ちゃんが泣いてみなさんに
ごめいわくがかかるので、ここでおけると言っています。子どもは、小さいときは泣きま
す。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞみなさん、少しの間、赤ちゃんとお母さんを
いっしょに乗せていってください。」
と、言いました。

そのお母さんが運転手さんの横まで行き、
お金をはらおうとすると、運転手さんは、
「目的地はここですか？」

と、ききました。

その女性は、気のどくそうに小さな声で、
「新宿までなのですが、子どもが泣くので
ここでおります。」

と、答えました。

すると運転手さんは、

「ここから新宿まで歩くのは大変です。

目的地まで乗っていってください。」

と、その女性に話しました。

そして、急にマイクのスイッチを入れたか
と思うと、



運転手さんは、どんな気持ち
で「いっしょに乗せていって
ください。」と言ったのかな。